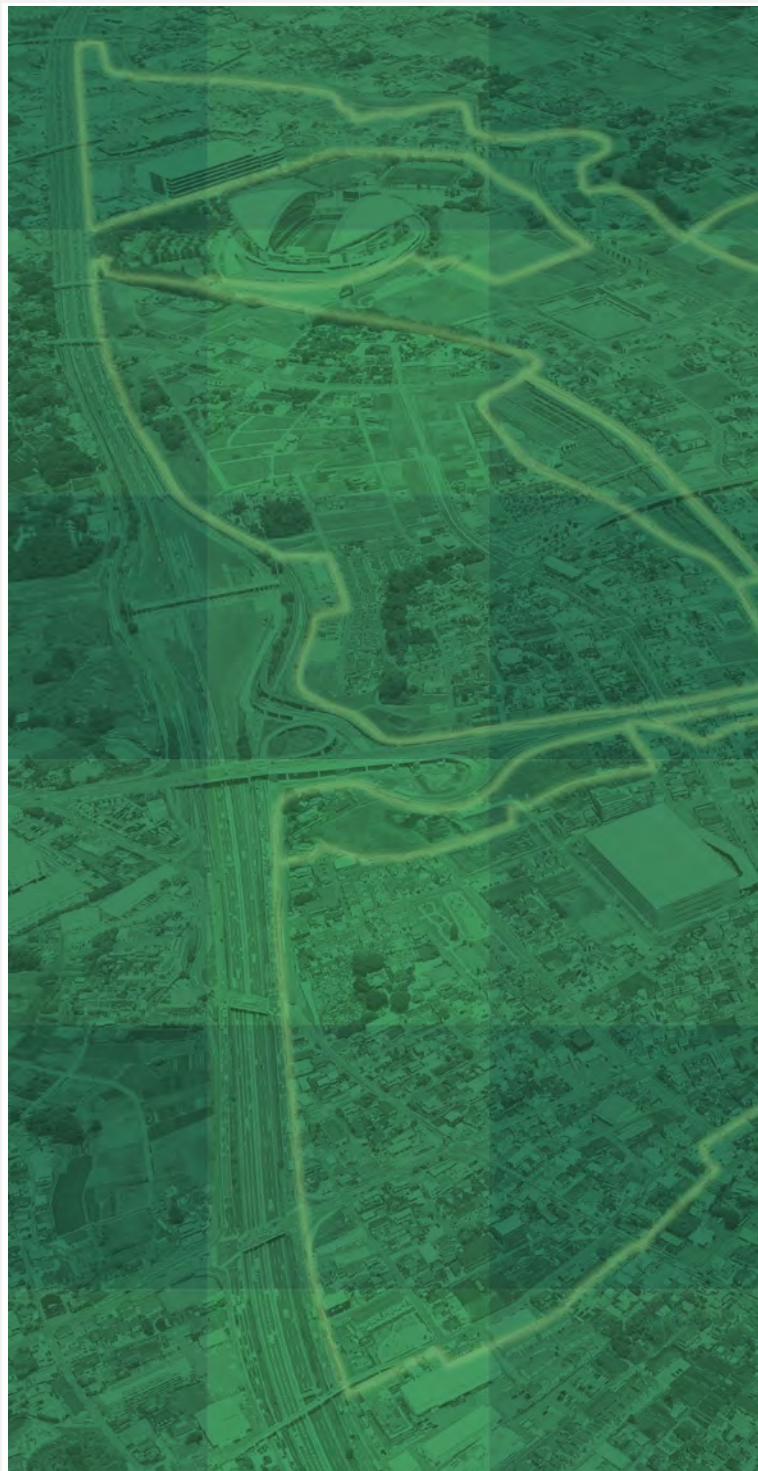


みその都市デザイン方針

2025年3月更新版



みその都市デザイン協議会

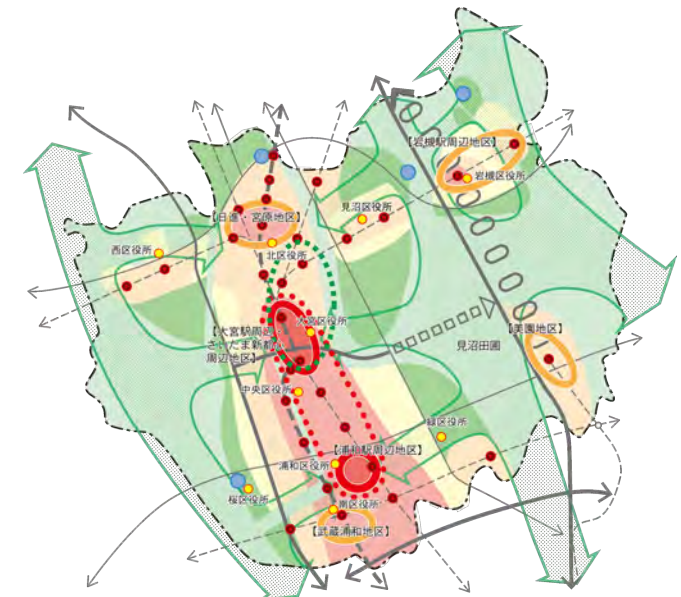


CONTENTS

背景・目的	p2
対象区域・目標年次・推進体制	p3
都市デザインの方針	p4
都市デザインの戦略	p5
戦略1. 緑豊かな副都心の顔と骨格をつくる	p6
戦略2. サッカー文化の薫る街のシンボル空間をつくる	p8
戦略3. 健康を育む緑と水の拠点を連続させる	p10
戦略4. 安心安全・快適な居住環境をネットワークする	p12
戦略5. 都市デザインをマネジメントする	p14

背景・目的

- 近年、我が国が人口減少・少子高齢化をはじめとした様々な社会的問題を抱えるなか、都市居住者が心身ともにより豊かな暮らしを送るためには、コンパクトな街に地域の特徴を活かした質の高い空間を形成し、人の様々な活動やコミュニケーションを生み出すこと、すなわち「都市をデザインすること」が重要な要素となってくる。
- さいたま市美園地区は、市の副都心の一つとして、「みそのウイングシティ」の約320haに及ぶ土地区画整理事業を核とする新市街地形成を行いながら、スポーツ、健康、環境・エネルギーをテーマとした拠点づくりが進められてきた。住宅・店舗等の建設や公共施設整備が進むなか、2017年2月には開発区域の大半を占める都市再生機構施行地区の都市基盤整備完了を迎えている。今後、土地活用が進展するにあたり、良好な街並みや自然環境の形成、オープンスペースの利活用促進、歩行環境・交通利便性の向上など、地域資源を活かしながら空間の質を高め、住む・働く・学ぶ・訪れる人それぞれにとって心地よい環境を維持・向上させていく事が一層重要な課題となる。
- 本方針は、住民・地権者や企業、大学等の専門機関、行政機関など、本地区に係る様々なまちづくり関係者の連携・協働により個性と魅力ある都市を実現するため、これまでのまちづくりコンセプトを継承しながら、本地区が目指すべき都市デザインの将来目標や実践方針・戦略として2017年4月に策定され、2022年1月策定の『美園スタジアムタウンビジョン2050』（以下、ビジョン）や地域状況、社会情勢の変化等も踏まえつつ2025年3月に時点更新を行ったものである。



市の将来都市構造図（市都市計画マスタープラン）

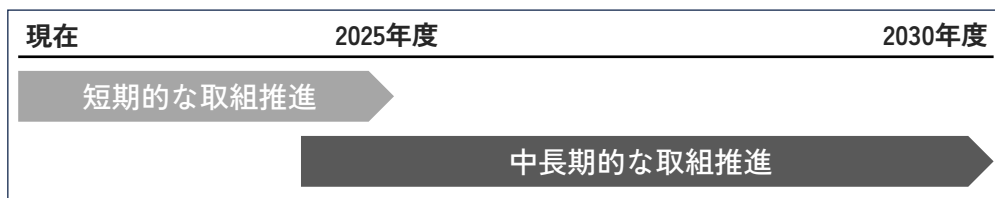


地区のシンボル：埼玉スタジアム2002

対象区域・目標年次・推進体制



対象区域（下図）国土地理院「電子国土Web」



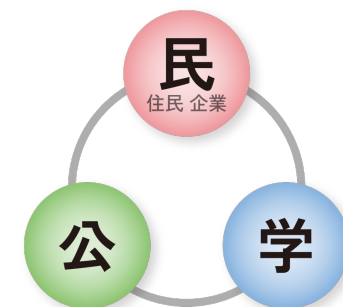
目標年次

- ビジョンの対象区域に即し、本方針の対象区域を左図の通りとする。
- 概ね2030年度を本方針の目標年次とする。
- 本方針は、住民・地権者や企業、大学等の専門機関、行政機関などが参加する「みその都市デザイン協議会」によって策定されており、公・民・学の連携・協働により実現を図る計画である。内容には現行の諸計画（市総合振興計画等）を上回るものや法令等の緩和を必要とするものも含まれており、これらの実現に向けては、各構成組織内部での検討や関係機関との調整を進めながら政策・事業へと結びつけるとともに、協議会内に設置する個別テーマを対象とした分科会において関係者間の連携・協働を図っていく。さらには協議会内の幹事会において本方針の進捗管理を実施し、まちづくりのステージに応じた戦略の見直しを行う。
- また、多様な関係者による連携・協働を円滑にするため、協議会の事務局を担う一般社団法人美園タウンマネジメントが地域のつなぎ役を担うとともに、同法人が運営事務局を務める「公民+学」によるまちづくり拠点「UDCMi（アーバンデザインセンターみその）」を都市デザインを推進する上での協働・情報発信の場として活用していく。

まちづくり活動の指針

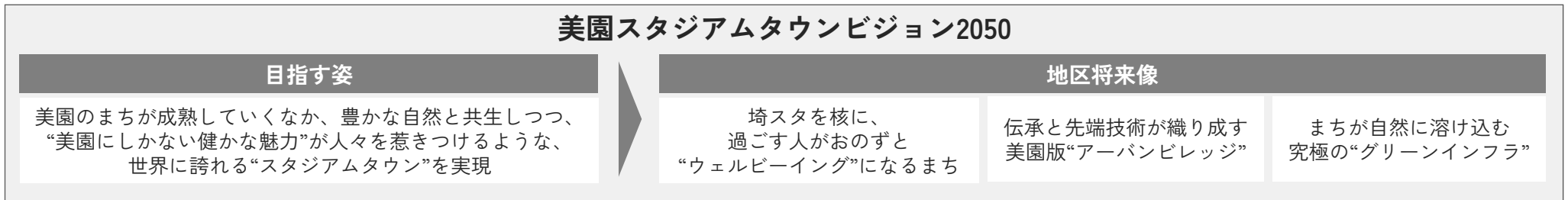
住民・地権者、企業、大学等の専門機関、行政機関など“美園”に係る様々な人々や団体が、オープンかつフラットな連携・協働のもと、新たな時代に対応した最先端の知見や技術を取り入れながら、地域の個性を活かした事業・活動を通じてスタジアムタウンづくりを機動的に実践していきます。

- 【公】 行政、公益団体、NPO
- 【民】 住民、地権者、開発事業者、商業者、まちづくり法人
- 【学】 大学研究者、学術研究機関、専門企業・専門家、学生



都市デザインの方針

- ビジョンの理念・地区将来像を踏まえ、都市デザインの方針を下記の通り設定する。



都市デザインの方針

- サッカー観戦者などの来街者をもてなすホスピタリティある環境と、日常的な賑わい・交流を創出する都市機能・活動を誘導しながら、市の副都心に相応しい都市環境を形成する。
- 安心・安全で心地よい居住空間と、公共交通・歩行者・自転車を中心とした交通環境ネットワークを整えながら、健康を育み、スポーツ・レクリエーションに親しみやすい都市環境を形成する。
- 見沼たんぼや綾瀬川水系につながるみどりの回廊を形成しながら、安全・快適で落ち着いた雰囲気の良い街並みを誘導し、脱炭素・循環型の持続可能な都市環境を形成する。

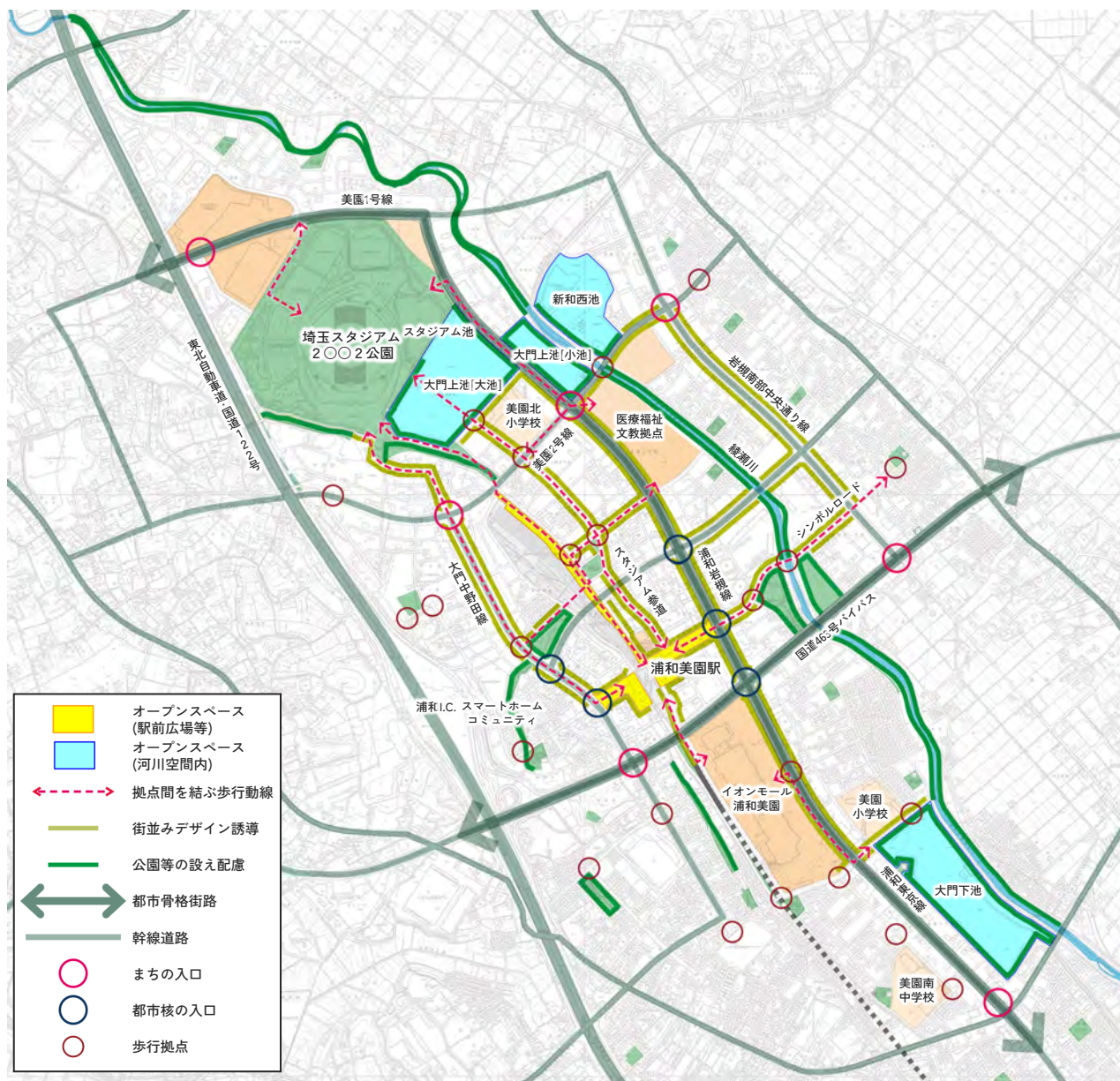


拠点	都市核 (浦和美園駅周辺)	<ul style="list-style-type: none"> 美園を象徴する緑豊かで品格ある都市空間・環境を形成する。 副都心として多様な都市活動を支える快適・便利・賑わいのある空間をつくる。
	埼玉スタジアム 2002公園	<ul style="list-style-type: none"> 健康・スポーツに取り組み、緑の拠点となる公園にする。 世界に誇れる快適なスタジアム環境をつくる。
	綾瀬川・調節池	<ul style="list-style-type: none"> 治水機能を維持しながら、健康を育みスポーツに親しみやすい親水空間や憩いの場づくりをする。
	学校・公園	<ul style="list-style-type: none"> 緑豊かで安心安全な居住空間の核となるような環境をつくる。
	特徴的な居住エリア	<ul style="list-style-type: none"> 環境・エネルギー・自然・健康等をテーマに、美園地区のモデルとなる居住エリアをつくる。
都市軸	都市骨格街路	<ul style="list-style-type: none"> 緑豊かで品格のある街並みと快適な歩行環境・自転車走行環境を形成する。 都市間交通の中心となり、街の入り口を演出する。
	3km回廊・スタジアム参道	<ul style="list-style-type: none"> 拠点間を結び都市生活の中心となる緑豊かで歩行者優先環境をつくる。 特に都市核と埼玉スタジアムを結ぶ軸は、大勢のサポーター通行に対応し、サッカーの街に相応しい緑豊かな“スタジアム参道”を形成する。
	オープンスペース・自然環境軸	<ul style="list-style-type: none"> 緑と水の拠点を連続させ、健康を育みスポーツに親しみやすい都市環境を形成する。 イベント開催などによる賑わい・交流の場をつくる

都市デザインの戦略

● 都市デザインの方針に即して、下記の通り戦略を設定する。

- 戦略1 緑豊かな副都心の顔と骨格をつくる
- 戦略2 サッカー文化の薫る街のシンボル空間をつくる
- 戦略3 健康を育む緑と水の拠点を連続させる
- 戦略4 安心安全・快適な居住環境をネットワークする
- 戦略5 都市デザインをマネジメントする



都市デザイン戦略図 ※各戦略図より歩行動線・街並みデザイン誘導に関する内容を中心に抜粋・再構成

戦略1. 緑豊かな副都心の顔と骨格をつくる (1/2)

- 街の顔となる浦和美園駅周辺の都市核エリアと都市骨格軸（浦和岩槻線・浦和東京線、国道463号バイパス）を中心に、景観誘導や都市機能誘導を進めるとともに、交通環境の充実を図り、副都心に相応しい空間を形成する。

戦略1-1 緑豊かで活力ある都市核エリアを形成する

① “美しい園”を象徴する緑と品格のある駅前空間をつくる

- 街の顔となる浦和美園駅東西の駅前広場と駅前通り線において、歴史ある地名“美園”を現代に象徴するような緑豊かで品格の感じられる美しい空間を生み出す。

② 副都心としての活力ある都市環境を形成する

- 多様な都市活動を支える副都心の核となる浦和美園駅周辺へ都市機能の誘導等を進め、住む人や働く人が快適・便利に感じられ、賑わいと交流の生まれる都市環境をつくる。

③ 都市核エリアから周辺部へ歩行環境を連続させる

- 浦和美園駅から商業施設など周辺部への歩行動線上に緑豊かで快適な歩行環境を連続させる。

取組方策 (○公有地内の取組 ◆民有地内の取組 ☆協働の仕組み)

- 駅前広場・駅前通り線の道路舗装・街路樹等の高質化整備・維持管理
- 駅前広場・駅前通り線の歩行空間確保：車両出入口の配置誘導等
- ◆駅前広場・駅前通り線沿道敷地内の街並みデザイン誘導：建物壁面の連続、建物色彩・照明デザインの協調等
- ◆駅前広場・駅前通り線沿道敷地内の景観誘導：建物内部の活動が見える建物低層部の設え、店舗等による賑わい形成等
- ◆駅周辺低未利用地の土地利用活性化・都市機能誘導：商業・業務等
- ☆駅起点の案内誘導サイン整備：多言語対応、デジタルサイネージ活用等
- ☆オープンスペースを活用した賑わい形成：マルシェイベント等
- ◆浦和美園駅と商業施設を結ぶ通り沿道敷地内の景観誘導：街路樹と協調する敷地内緑化、建物壁面の連続、建物色彩・照明デザインの協調等

戦略1-2 街の骨格軸を形成する

① 都市骨格軸を形成する

- 美園地区を東西南北に貫く2本の都市計画道路（浦和岩槻線・浦和東京線、国道463号バイパス）を都市骨格軸に設定し、街の骨格に見立てて緑豊かで品格のある景観を形成する。

② 緑豊かで安全な街路ネットワークをつくる

- 都市骨格軸を中心とした地区内幹線道路において、緑豊かで安全な街路ネットワークを形成する。区画整理地区内外を結ぶ都市計画道路によって地区全体の道路ネットワークを強化する。

③ 都市拠点間接続機能を強化する

- 大宮・新都心地区や岩槻地区など市内の都心・副都心と美園地区を接続する交通環境を強化する。

- 高木を中心とした道路空間内の街路樹整備・維持管理
- ◆沿道敷地内の景観誘導：街路樹と協調する敷地内緑化、建物壁面の連続、建物色彩の協調等
- 高木を中心とした道路空間内の街路樹整備・維持管理
- 道路内への歩行空間・自転車走行空間の確保
- 区画整理区域外の美園1号線・美園2号線等の都市計画道路整備促進
- ◆沿道敷地内の景観誘導：街路樹と協調する敷地内緑化等
- 地下鉄7号線延伸、東西交通大宮ルート（LRT等）整備推進
- 都市骨格軸へのバス優先レーン等の整備
- 広域的な交通環境向上に資する都市計画道路整備促進

戦略1-3 街の入口を演出する

① 街の入口を演出する

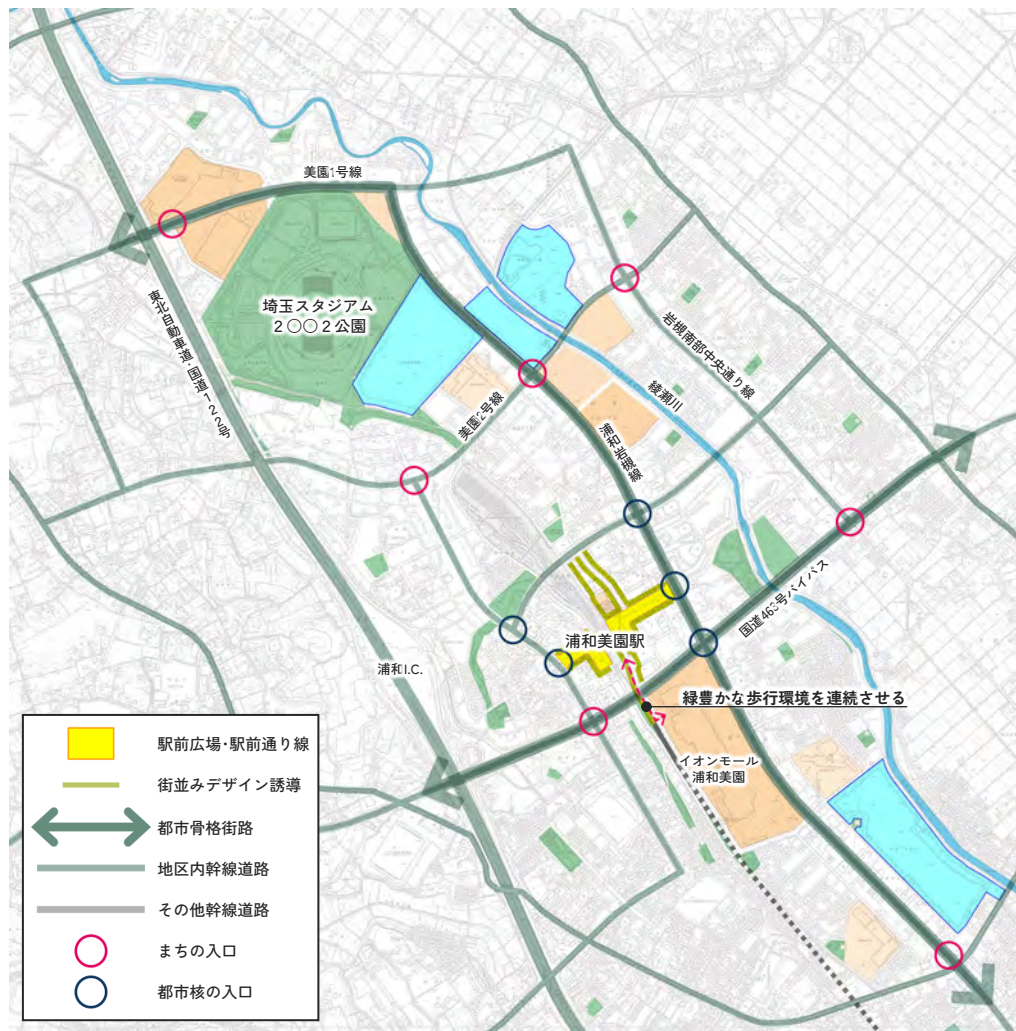
- 都市骨格軸等の主要街路交差点部に街の入口を演出する。地区外の高速移動空間から地区内部の緩速移動空間・生活の場に入ることを意識させる。

② 都市核エリアの入口を演出する

- 都市核エリア外周部の主要街路交差点部に、歩行者にとってわかりやすい都市核エリア入口としての空間を演出する。

- 道路空間内の演出：エリア内を明示するゲート・モニュメント設置等
- ◆沿道敷地内の景観誘導：シンボルツリーの植樹、照明デザイン等
- 道路空間内の演出：歩道の舗装切り替え等
- ◆沿道敷地内の景観誘導：シンボルツリーの植樹、照明デザイン等

戦略1. 緑豊かな副都心の顔と骨格をつくる (2/2)



都市デザイン戦略図 (緑豊かな副都心の顔と骨格をつくる)



駅前複合公共施設



駅前公共空間を活用した
賑わい交流イベント (みそのいち)



駅前の将来イメージ



都市骨格街路 (浦和岩槻線)



都市骨格街路 (浦和東京線)



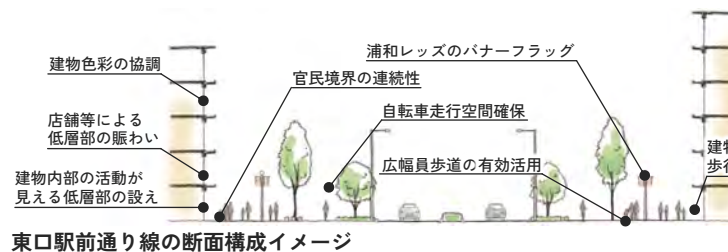
都市骨格街路の将来イメージ



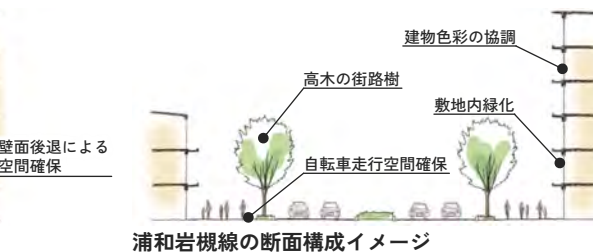
自転車走行空間
(自転車歩行者道)



公共空間内の未利用スペースを
活用した自転車駐輪場整備



東口駅前通り線の断面構成イメージ



浦和岩槻線の断面構成イメージ

戦略2. サッカー文化の薫る街のシンボル空間をつくる (1/2)

- 景観的・文化的なシンボルである埼玉スタジアム2002と浦和美園駅を結ぶコミュニティ道路（通称：スタジアム参道）を軸に、重点的な景観誘導や交流と賑わいを生み出す空間づくりを進め、世界に誇れるサッカーの街、スタジアムの街をつくる。

戦略2-1 埼玉スタジアムを中心とした賑わい・交流拠点をつくる

① 世界に誇れる快適なスタジアム環境を形成する

- ▶ アジア最大級の規模を誇るサッカー専用スタジアムの利用環境整備や周辺の景観形成を進め、世界に誇れる快適なサッカー観戦環境をつくる。また、地区内交通環境に配慮しつつ、スタジアムのアクセス環境を向上させる。

② 大門上池を活用した賑わい・交流の場を形成する

- ▶ サッカー試合日のスムーズな移動環境を整えつつ、埼玉スタジアム2002公園に隣接する大門上池[大池]において賑わい・交流の場を形成する。

③ 埼玉スタジアムから周辺部へ歩行環境を連続させる

- ▶ 埼玉スタジアム2002公園の緑豊かな歩行環境を周辺部へ連続させる。

取組方策 (○公有地内の取組 ◆民有地内の取組 ☆協働の仕組み)

- サッカー試合日のスタジアム利用環境向上
- 日常的な公園利用促進
- 新駅設置検討状況に応じた公園内空間配置見直し
- 試合前後におけるスタジアムのアクセス環境向上

- 歩行空間・多目的空間としての大門上池調節池広場の整備・管理活用
- ☆オープンスペースを活用した賑わい形成：野外集客イベント実施等

- 中野田地区斜面林や街区公園の整備による前庭空間の創出
- ◆保留地を活用した歩行空間確保、都市機能誘導：日常的な公園利用者やサッカー観戦者のための店舗等

戦略2-2 “参道”を軸に表情豊かな都市環境を形成する

① 美園のシンボルとなる“参道”をつくる

- ▶ コミュニティ道路を埼玉スタジアム2002への参道に見立て、サッカーの街に相応しいメインストリートとして、大勢のサッカー観戦者の通行にも対応した歩行環境を整える。

② 多様な都市活動を展開する

- ▶ サッカー試合日だけでなく日常的に多様な都市活動が生まれるような都市環境の形成を進める。

③ 医療・福祉・文教拠点へ歩行環境を連続させる

- ▶ 参道と医療・福祉・文教拠点を結ぶ道路を中心に、快適な歩行環境を周辺部へ連続させていく。

- スタジアム参道の歩行空間確保：サッカー試合日における歩行者優先交通規制検討、交差点部の溜まり空間創出誘導、車両出入口の配置誘導等

- 駅から埼玉スタジアム公園までの浦和レッズバナーフラッグ掲出
- ◆スタジアム参道沿道敷地内の街並みデザイン誘導：低層部の壁面セットバック、建物色彩・照明デザイン等の協調、裏配線による無電柱化等

- ◆スタジアム参道沿道敷地内の街並みデザイン誘導：建物内部の活動が見える建物低層部の設え、店舗等による賑わい形成等

- ◆スタジアム参道未利用地の土地利用活性化や暫定利用

- 周辺道路舗装の高質化・維持管理、歩行空間確保

- 歩行空間のユニバーサルデザイン推進

- ◆沿道敷地内の街並みデザイン誘導：街路樹と協調する敷地内緑化等

戦略2-3 スタジアムアクセス空間を充実させる

① 既存のオープンスペースを活用する

- ▶ 車両基地内歩行者専用道路をサッカー試合日の歩行者動線として活用しつつ、浦和美園駅と埼玉スタジアム2002を結ぶ賑わい空間を形成する。

② 街の回遊性を強化する

- ▶ 浦和美園駅と埼玉スタジアム2002を結ぶ大門中野田線への歩行者の流れを創出するとともに、南北方向の各道路を結ぶ東西アクセスをスムーズにし、街の回遊性を強化する。

- ☆オープンスペースを活用した賑わい形成：マルシェイベント等

- 安全かつ円滑な美園2号線の歩行者横断方法の確保

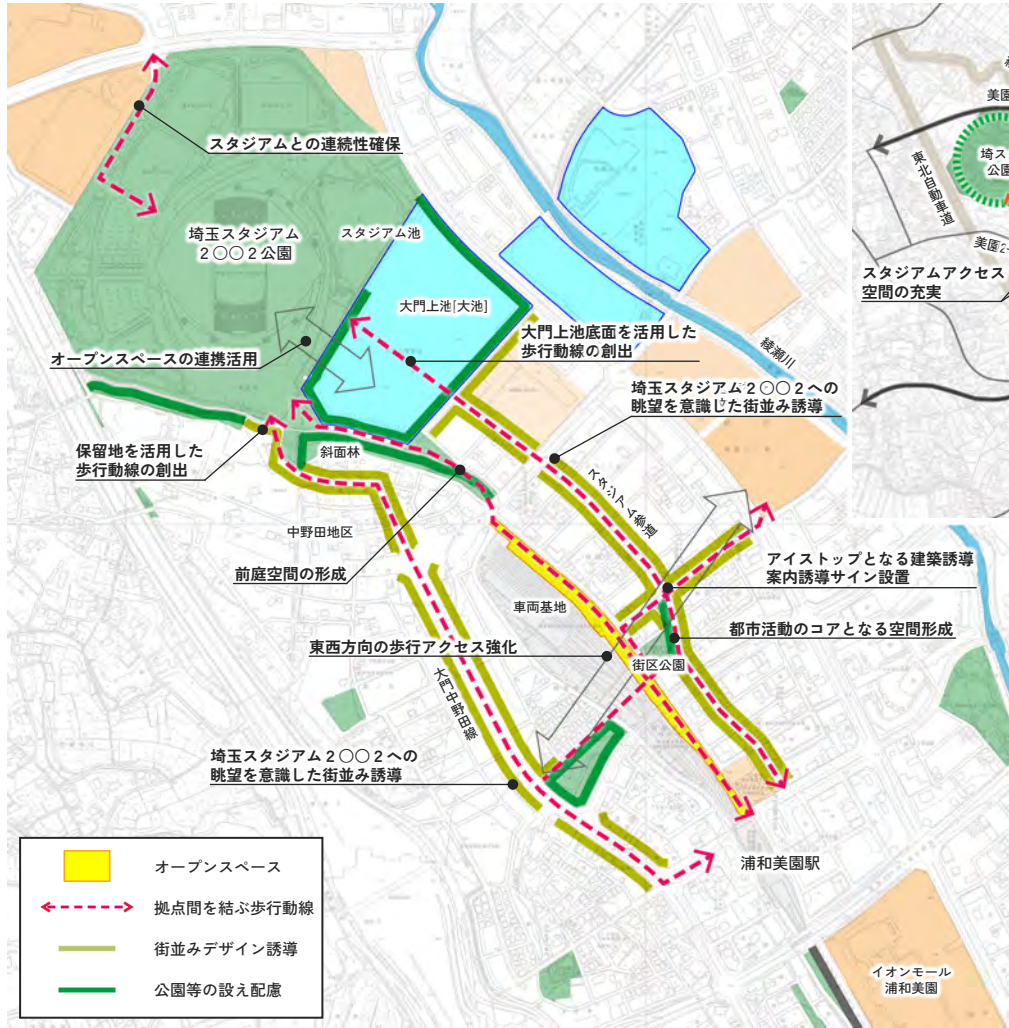
- ◆駅から埼玉スタジアム公園までの浦和レッズバナーフラッグ掲出

- ◆街の移動性向上に寄与するモビリティ実験空間としての活用検討

- ◆大門中野田線沿道敷地内の街並みデザイン誘導：街路樹と協調する敷地内緑化等

- ◆東西方向の街路と車両基地歩行者専用道路の連続性を確保

戦略2. サッカー文化の薫る街のシンボル空間をつくる (2/2)



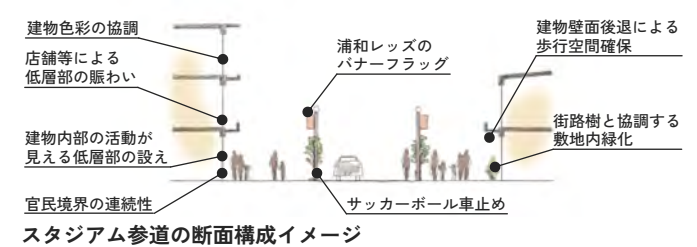
都市デザイン戦略図 (サッカー文化の薫る街のシンボル空間をつくる)



スタジアム参道の将来イメージ



案内サイン整備



スタジアム参道の断面構成イメージ



オープンスペース利活用 (浦和美園まつり&花火大会)



壁面後退によるゆとりある歩行空間の創出



沿道施設の敷地際演出 (鉢植え)



埼玉公園



参道の起点となる浦和美園駅



「サッカーのまち」の演出



スタジアム参道



サッカー開催時の歩行滞留空間創出実験



サッカー開催時のシャトルバス優先走行化実験

戦略3. 健康を育む緑と水の拠点を連続させる (1/2)

- 美園地区固有の自然環境である綾瀬川の水辺環境を軸として、都市開発によって生み出した公園・調節池における緑と水の拠点づくりを進め、健康を育みスポーツ・レクリエーションに親しみやすい都市環境をつくる。

戦略3-1 綾瀬川に緑と水の軸を形成する

① 綾瀬川に歩行環境を整備する

- 綾瀬川を緑豊かな水辺空間として整備・維持管理し、歩行環境を整えることで地区南北に位置する緑と水の拠点をつなぐ軸を形成する。

② 周辺部へ歩行環境を連続させる

- 緑と水の拠点・ネットワークを市街地へ展開し、自然環境と一体となった街並みを形成する。

取組方策 (○公有地内の取組 ◆民有地内の取組 ☆協働の仕組み)

- 綾瀬川の治水機能を高める護岸整備
- 綾瀬川堤防上の遊歩道整備推進
- 護岸部分の親水空間整備検討

- 綾瀬川や公園等と連続した街路樹・植栽帯の整備
- ◆沿道敷地内の街並みデザイン誘導：街路樹と協調する敷地内緑化等

戦略3-2 健康、環境・エネルギーの拠点をつくる

① 広大な調節池を活用する

- 広い面積を有する大門下池の外周部や底面を活用して、スポーツや健康、環境・エネルギーの拠点を生み出す。

② 調節池を介して街の拠点を連続させる

- 新和西池・大門上池[小池]を活用し、埼玉スタジアム2002公園と医療・福祉・文教拠点をつなぐ歩行環境を整えると同時に、健康やスポーツに親しめるオープンスペースを整備する。

③ 身近な健康拠点を形成する

- 子供からお年寄りまで健康を育め、交流の生まれる身近な公園・広場を整備する。

- 大門下池の修景検討：歩行環境整備、緑化整備等
- 大門下池の底面活用検討：ウォーキング・ランニングコース環境の維持保全、フロート式水上太陽光発電システムの導入検討

- 新和西池・大門上池[小池]の修景検討：歩行環境整備、緑化整備等
- 新和西池・大門上池[小池]の底面活用検討：健康・スポーツに取り組める多目的空間等

- 公園やオープンスペースへの健康器具・遊具の設置
- ☆地域主体の公園利用ルールづくり支援

戦略3-3 近隣公園を核に緑をひろげる

① 緑の核として近隣公園を整備する

- 綾瀬川を挟んだ地域の緑の核として、子供からお年寄りまで利用しやすく、地域コミュニティの醸成される近隣公園を整備する。

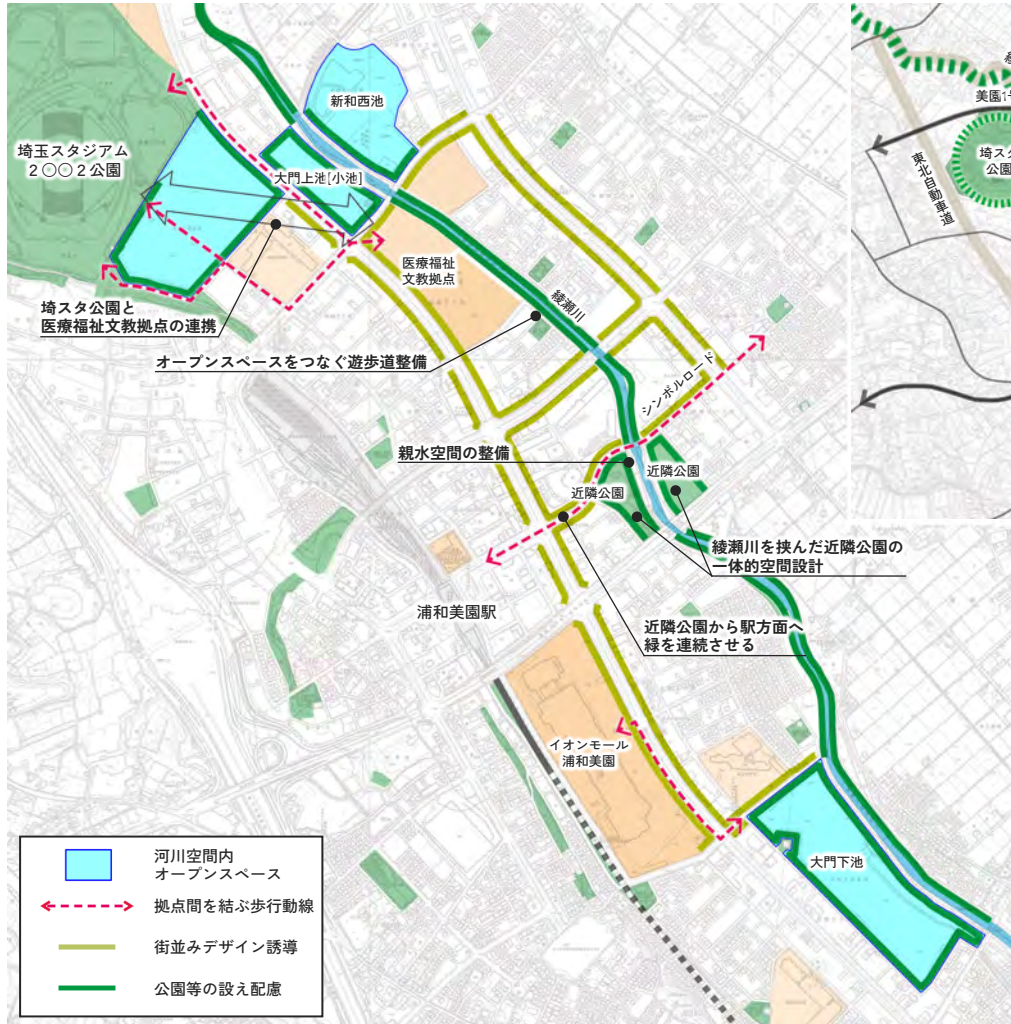
② 近隣公園から東西へ緑をひろげる

- 浦和美園駅東口駅前広場と近隣公園をつなぐ道路（シンボルロード）に緑豊かな歩行環境を形成し、緑環境を周辺にひろげる。

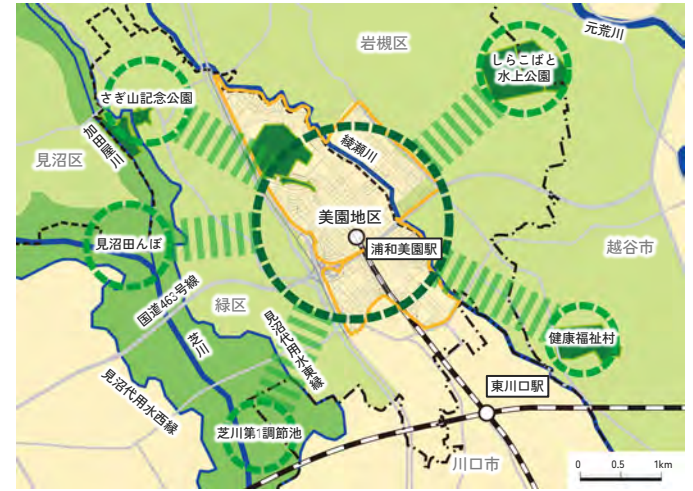
- 綾瀬川を挟んだ近隣公園の一体的な空間設計
- 段階的な近隣公園整備

- 綾瀬川や公園等と連続した街路樹・植栽帯の整備
- ◆沿道敷地内の街並みデザイン誘導：街路樹と協調する敷地内緑化等

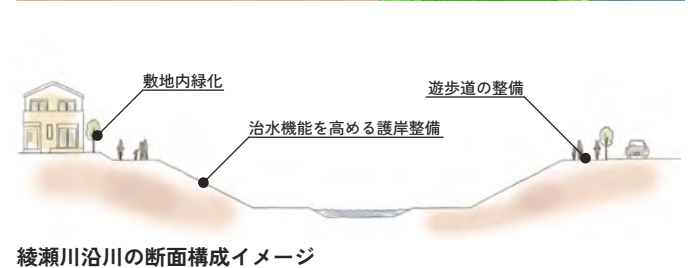
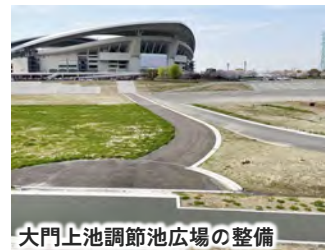
戦略3. 健康を育む緑と水の拠点を連続させる (2/2)



都市デザイン戦略図 (健康を育む緑と水の拠点を連続させる)



広域的な健康・緑ネットワーク



戦略4. 安心安全・快適な居住環境をネットワークする (1/2)

- 地区内の公園・学校を中心に安心安全な歩行環境ネットワークをつくり、美園らしさを活かした快適な居住環境を展開する。

戦略4-1 歩行者中心の居住環境ネットワークをつくる

① 安心安全な歩行環境ネットワークをつくる

- 生活の核となる近隣公園や街区公園、小・中学校周辺において、安心安全な歩行環境を形成し、それらをむすぶ歩行環境ネットワークを形成する。

② 歩行環境を補完する地区内交通環境を整える

- 歩行環境を補完する地区内交通環境を整えるとともに、埼玉スタジアム2002でのサッカー試合日における、居住者のための安全で円滑な交通環境を整える。

③ 住宅地の安らぎと美しさを保つ

- 安心・安全をもたらす灯り環境を整えながら、ゴミのない美しい住宅地をつくる。

取組方策 (○公有地内の取組 ◆民有地内の取組 ☆協働の仕組み)

- 省エネや周辺環境に配慮しつつ、夜でも安心して歩ける照明整備
- 公共施設外周部等道路内への歩行空間確保、歩行拠点形成：歩行空間確保、歩行拠点形成、路上喫煙禁止の推進等
- 車両交通規制：スクールゾーン、ゾーン30プラス等の導入支援
- ◆沿道敷地内の街並みデザイン誘導：街路樹と協調する敷地内緑化等
- 歩行環境を補完する低環境型モビリティの導入：モビリティシェアリング等
- サッカー試合日における居住者の安全で円滑な交通環境の形成

- ◆夜間に安心感を与える外構照明の配置誘導
- ☆ゴミの出し方マナー啓発

戦略4-2 美園らしさを生かした居住環境をつくる

① モデルとなる住宅街区を形成する

- スマートホームコミュニティをはじめ、環境・エネルギー・自然・健康等をテーマとした美園地区のモデルとなる住宅街区を形成する。

- ◆スマートホームコミュニティ先行街区整備および普及促進
- ◆保留地を活用したモデル居住街区の整備
- ☆次世代型自動車、電動二輪車等低環境負荷車両の普及促進

② 農とふれあえる居住エリアをつくる

- 中野田地区へ点在する生産緑地の農環境を適切に維持・管理し、農とふれあえる居住エリアづくりをする。

- ◆生産緑地の維持・管理
- ◆見沼田んぼ等の周辺農地の活用

③ 斜面林を保全する

- 街に豊かな表情をもたらす緑の核として、中野田・下野田・大門地区の斜面林を保全し、適切な維持管理を行う。

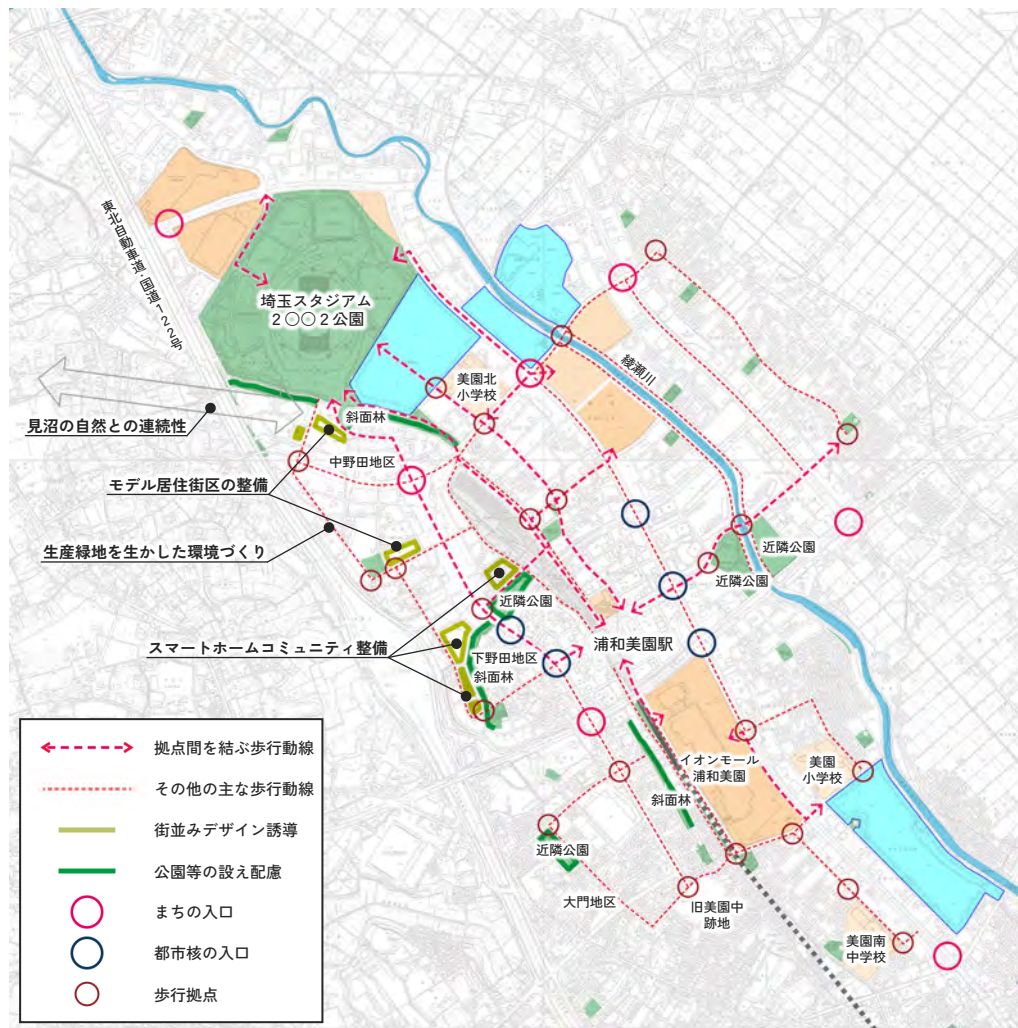
- 斜面林の保全・維持管理

④ 見沼の緑と風を美園に迎え入れる

- スタジアム南側の中野田地区において、国道122号を挟んだ東西のみどりの連続性を確保し、桜の名所でもある見沼田んぼの緑と風を駅周辺市街地へ接続する。

- 埼玉スタジアム2002公園と連続した街路樹の整備
- ◆沿道敷地内の街並みデザイン誘導：街路樹と協調する敷地内緑化等

戦略4. 安心安全・快適な居住環境をネットワークする (2/2)



都市デザイン戦略図 (安心安全・快適な居住環境をネットワークする)



住宅街区内コモンスペース



屋根色と調和した太陽光パネル



住宅街区内エネルギー拠点設備



落ち着いた色調で揃えた家並み



斜面林を阻害しない色調



緑化舗装等を用いた敷地内緑化



沿道に植栽を設けた敷地内緑化



沿道に植栽を設けた敷地内緑化



街角を意識した敷地内緑化



ゴミ集積所の配置位置の工夫



防犯灯を補う家灯り



コモンスペースに向けた家灯り



見沼んぼ



斜面林 (下野田緑地)



生産緑地



公共空間外周部の歩行環境



街角に設けた植栽・ベンチ



生活道路の車両交通規制

戦略5. 都市デザインをマネジメントする

- 公・民＋学による連携・協働の場を維持・強化しながら、公有地・民有地において地域の特色やまちづくりのステージに応じた都市空間のデザインマネジメントを推し進めていく。

戦略5-1 地域が連携・協働するプラットフォームを築く

① 継続的な連携・協働の場をつくる

- 各戦略の取組実現に向け、都市デザイン協議会が中心となって関係者間の継続的な連携・協働を推進する。

② 地域を巻き込んだオープンな議論を展開する

- 地域住民や事業者など、より多くの人々が関わりながら都市デザインに関するオープンな議論を進める。

戦略5-2 都市空間のデザインマネジメント体制を構築する

① オープンスペースの利活用・維持管理体制を構築する

- 公共空間等のオープンスペースの高質整備・維持管理・利活用の仕組みを構築する。

② 主要地区において街並みデザイン協議の仕組みを構築する

- 主要な都市軸・エリアにおいて、地権者や事業者など地域主体で街並みデザインガイドラインの管理・運営を行う景観協議の仕組みを構築する。

③ 生活エリアの景観・美観づくりを進める

- 市民にとって特に身近な生活エリアにおいて、地権者や関係住民が主体となった景観・美観のルールづくり・運用を行う。

戦略5-3 都市のコミュニケーション力を高める

① 地域への情報発信を推進する

- 本方針や各種取組、開発進捗状況など、まちづくりに関する情報を様々な媒体を通して地域へ発信する。

② 街への関心を高めるプログラムを展開する

- 地域の人々の街やまちづくりに対する関心を高めるため、普及・啓発プログラムを展開する。

③ 街に対する愛着・誇りを醸成する

- 身近な通り・公園などの命名や街のロゴマーク考案を通し、街に対する愛着や誇りを醸成する。

取組方策

(☆協働の仕組み)

- ☆公共空間デザインの継続的な検討
- ☆個別テーマ分科会の開催による連携・協働推進
- ☆本方針の進捗管理の継続的実施

- ☆ワークショップ開催による地域住民・事業者等の参画
- ☆学生研究提案プログラム「みその都市デザインスタジオ」の企画運営

- ☆都市利便増進協定・歩行者利便増進道路制度等の活用
- ☆住民参加・事業者参加による美化・清掃活動の推進体制の構築
- ☆地域組織・団体等との連携による賑わい創出など

- ☆景観形成特定地区指定等の検討
- ☆『街並みデザインガイド』に基づく街並み誘導・協議体制の構築

- ☆地権者・関係住民等による景観協定等締結支援
- ☆ゴミ出しルールや美化・清掃活動の推進体制の構築

- ☆ウェブサイト・冊子・SNS等を活用したまちづくり情報の発信
- ☆フォーラム・シンポジウム・意見交換会等の開催

- ☆街歩き・勉強会・セミナー等の市民参加プログラム開催
- ☆街並み形成のモデルとなる建築行為等の地域表彰制度の創設検討

- ☆通り・公園名等の命名
- ☆街のロゴマーク等作成



ワークショップ・意見交換会



みその都市デザインスタジオ



地域清掃活動



街なかアンケート調査



地区内イベント等でのPR展示